

音声拡聴器を通じて、より快適なコミュニケーションを 難聴の母のために閃いた アイディア商品

伊吹電子

うめナビ vol.5-3

伊吹電子(川崎市高津区下作延、松田正雄社長、044・888・3796)は、電子機器・基板設計製造を主業としているが、現在は、同社による開発商品である音声拡聴器を製造、販売まで一手に行っており、巷の大きな話題となっている。

音声拡聴器とは、難聴の方にも音が聴こえるようにする補助器具(医療器具ではないことがポイント)のことである。聴覚補助の器具としての補聴器との違いは、補聴器が、厚生労働省によって薬事法における医療機器として正式に認定した聴覚補助具で、厳しい制約条件があるのに対し、音声拡聴器は薬事法の規制を受けていない福祉器具であるため、誰でも入手することができる。

中でも、最初に開発された「クリアーボイス」が一番人気。見た目は携帯電話のような形状で、スピーカー部分を耳に当てながら側面のボタンを押すだけで簡単に使用でき、ボタンを離すと電源が切れる



様々な種類の「音声拡聴器」

という操作性に優れていることが特徴。2005年にはその機能性が認められ、川崎市ものづくりブランドに認定されている。また、川崎市が高齢者に贈呈している敬老祝品にも選定されている。

他にも骨伝導型タイプのクリアーボイスや、ペンダント型の「iペンダント」、音楽プレーヤーのような「iスマートボイス」、ヘッドホン型の「カムバックⅡ」、受話器に取り付け使用する「ハイハイ電話」など、多様な音声拡聴器を開発している。

価格面でも、両耳で数十万円する補聴器に比べ、音声拡聴器は1万円〜4万円と安く、通販サイトからも容易に購入することができる。東急ハンズ(一部店舗を除く)などの店頭販売も行っており、今後は中国での販売も視野に入れているとのこと。

実際に音声拡聴器を開発するに至ったきっかけは、松田社長が帰郷した際に、母親が高齢で重い難聴になっていた事実に愕然とし、母親のために何か役に立てないかと考えた末に、段ボールを用いて音声拡聴器を製作し、母親に使用させたところ「よく聞こえる」と喜ばれたことだった。

松田社長は、「耳の不自由な人が、より快適なコミュニケーションが取れるようになる製品を今後開発していきたい」と強い意気込みを語る。

詳しくはホームページにて

(<http://www.ibukiel.co.jp>)